

## 知床五湖フィールドハウス運営業務の検討（植生保護期）

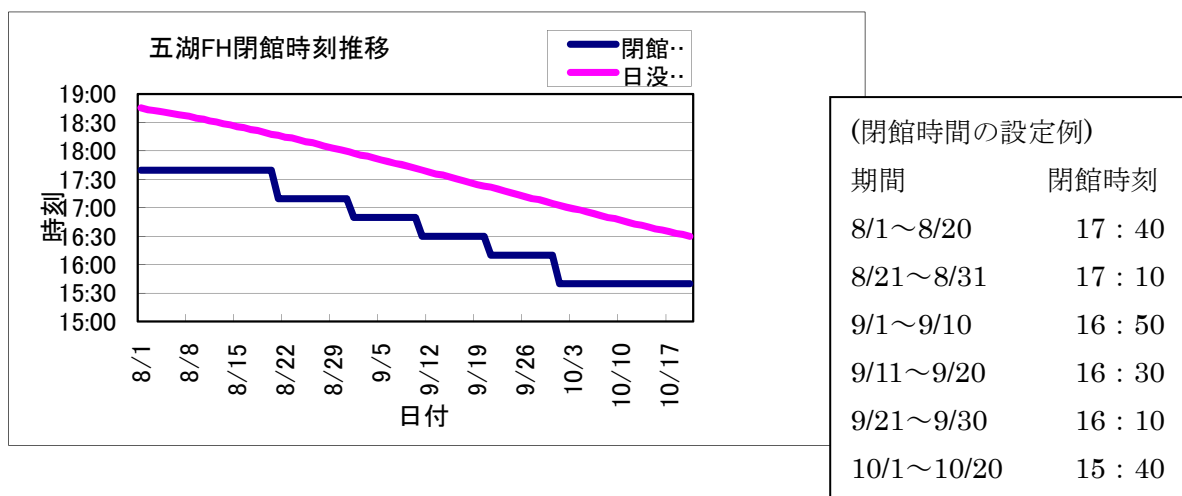
利用調整地区の立入認定手数料により運営される五湖フィールドハウス(以下五湖FH)の運営経費を低減させるため、運営体制を検討する。

## 【五湖FH運営の前提】

- ・五湖園地は7:30～18:30まで11時間開園。
- ・五湖FHは、開園とともに開館(7:30)、業務終了次第、閉園前に閉館する。
- ・最初のレクチャー開始は8:00
- ・最終レクチャー開始は17:00(レクチャー15分、利用1時間、18:30までに退出のため)
- ・閉館は最終レクチャー開始の40分後  
(最終グループが地上歩道から高架木道に出る時間を想定)

⇒日没時間が18:30以降(～8/20)の場合、閉館時間は7:30～17:40

- ・日没時間の推移に対応して、閉館時間を調整する



閉館時間の変化に伴い、運営体制を変更する。

## ⇒立入認定手数料試算パターン②の運営体制

- 8/1～8/31 : 2交代制シフトで運用
  - 人工数 = 日数 x 人数 x 1.5
- 9/1～9/30 : 交代制シフトとせず、1時間までの超過勤務手当で対応
  - 人工数 = 日数 x 人数 x 1.15
- 10/1～10/20 : シフト無し、超過勤務手当無しで対応
  - 人工数 = 日数 x 人数

## 知床五湖利用調整地区 利用者数の試算について

第 10 回協議会資料では遊歩道の利用ルートごとの利用者数から新制度利用者数の試算を行った。その後、受付手続き・広報の検討において、利用形態毎（個人利用 or 団体利用）の対策が重要であることが指摘されている。これに対応して利用形態別の利用者数試算を行う。

### 【1. 駐車場台数より利用形態別の利用者数推計】

2009 年の知床五湖駐車場を利用した車種別の台数に、各車種別の乗車人数係数（オートバイ：1.08 人/台 乗用車：2.37 人/台、マイクロバス：16.73 人/台、バス：29.34 人/台）を掛けることで、利用者数を推計した。

2009 年知床五湖駐車台数から利用者数の推計

	個人		団体		
	二輪車	乗用車	マイクロバス	大型バス	
4	11	1,211	33	1,056	ヒグマ活動期想定期間
5	104	14,402	435	21,125	(5/10～7/31)
6	232	15,211	1,021	34,944	個人 43,217
7	650	21,650	1,322	31,746	団体 87,319
8	1,427	32,230	1,138	31,012	植生保護期想定期間
9	831	26,909	1,188	38,876	(8/1～10/20)
10	84	12,525	920	27,316	個人 71,306
11	5	856	33	2,553	団体 94,603
計	3,344	124,994	6,090	188,627	

#### \* 車種別の乗車人数係数について

車種別の乗車人数係数は、二輪車とマイクロバスについては知床国立公園利用状況調査で使用している係数（自然公園財団、1988）を使用した。乗用車と大型バスの係数については、H21 および H22 の五湖コントロール導入実験時に実施した簡易調査に基づいた。H21/6/24・25 の 2 日間および H22/6/22～7/6 の 11 日間における大型バス 178 台の平均値として 29.34 人/台を、H21/6/24・25 の 2 日間で調査した乗用車 547 台の平均値で 2.37 人/台を係数として利用した。

この係数で計算した場合 2009 年の年間利用者数は 296,445 人となる。カウンター調査に基づいた地上歩道利用者数約 253,358 人（知床国立公園利用状況調査、2009）より、4 万人程度多い。この差は一定数の利用者が高架木道のみ利用している、団体が多い時期の調査であるため係数に誤差がある、などの理由が考えられるが、若干多めの推計値である可能性がある。

## 【2. 利用形態別の新制度利用者推計】

利用時期、利用形態ごとに、新制度を利用する割合を検討し、2009 年利用者数をもとに、新制度の利用者数を推計する。

- ヒグマ活動期での個人利用者：
 

遊歩道利用構造調査（知床財団 2008, 2009）では、全地上歩道利用者の 10%程度がネイチャーガイドに引率されていた。料金を払ってより良い体験を求めるガイドツアーのニーズは同程度存在していると考えられる。安全率を考えて全体の 5%~10%前後の利用があり得ると予想する。（第 10 回協議会 資料 4 参照）
- ヒグマ活動期での団体利用者：
 

1 ツアーの定員が 10 名であることなどから、団体ツアーの企画上大きく制限される。団体ツアーのヒグマ活動期利用率は 0%、または 1%程度と予想する。
- 植生保護期の個人利用者：
 

H21 年導入実験でのアンケート結果では、手数料徴収が行われても利用するとの回答が 40~60%である。安全率を考慮してこの半分程度と考え、20%~30%程度が手数料を支払って利用すると推定する。（第 10 回協議会 資料 4 参照）
- 植生保護期の団体利用者：
 

この利用形態については最も不確定要素が高い。ツアーを企画する旅行社が旅程保障のリスクを勘案して利用を避けるならば 0%となることもありうるが、付加価値の高いツアー商品として積極的に企画する可能性もある。0%~20%の間で、複数パターンを下記に試算した

新制度での地上歩道利用者数の予測（利用形態別）

			パターン ④	パターン ⑤	パターン ⑥	パターン ⑦
2009 年の実績人数 のうち、新制度を利用する人の割合	ヒグマ活動期	個人	5%	10%	10%	10%
		団体	0%	0%	0%	1%
	植生保護期	個人	20%	30%	30%	30%
		団体	0%	0%	10%	20%
新制度の地上歩道 利用人数(予想値)	ヒグマ活動期		2,161	4,322	4,322	5,195
	植生保護期		14,261	21,392	30,852	40,312
	計		<b>16,422</b>	<b>25,714</b>	<b>35,174</b>	<b>45,507</b>
高架木道利用人数(予想値)			280,022	270,731	261,271	250,937

想定利用者数のパターン④～⑦は、団体ツアーの動向に影響される。

- パターン④は、団体利用がほぼすべて高架木道へ移行するパターン
- パターン⑤は、個人利用の新制度利用を促進させたパターン
- パターン⑥は、植生保護期の団体利用が 10%程度加わったパターン
- パターン⑦は、ヒグマ活動期および植生保護期の団体利用をかなり促進させたパターン

**実際には、初年度からツアー業者が利用調整地区利用のツアー造成を行うかは不確定部分が大きい。個人利用者および旅行業界への周知の努力をした上で、パターン⑤～⑥の間の利用者数を想定することが妥当と考えられる**

### 【3. 運営経費に見合う収入を得るための立入認定手数料試算】

各パターンでの総経費を想定利用者数で割ることにより、運営に必要な立入認定手数料の金額（1人当たり）を試算した。

想定経費 想定利用者数	パターン① 経費：12,919,600	パターン② 経費：11,947,250	パターン③ 経費：12,098,600
④ 16,000	¥807	¥747	¥756
20,000	¥646	¥597	¥605
⑤ 25,000	¥517	¥478	¥484
30,000	¥431	● ¥398	¥403
⑥ 35,000	¥369	¥341	¥346
40,000	¥323	¥299	¥302
⑦ 45,000	¥287	¥265	¥269
60,000	¥215	¥199	¥202

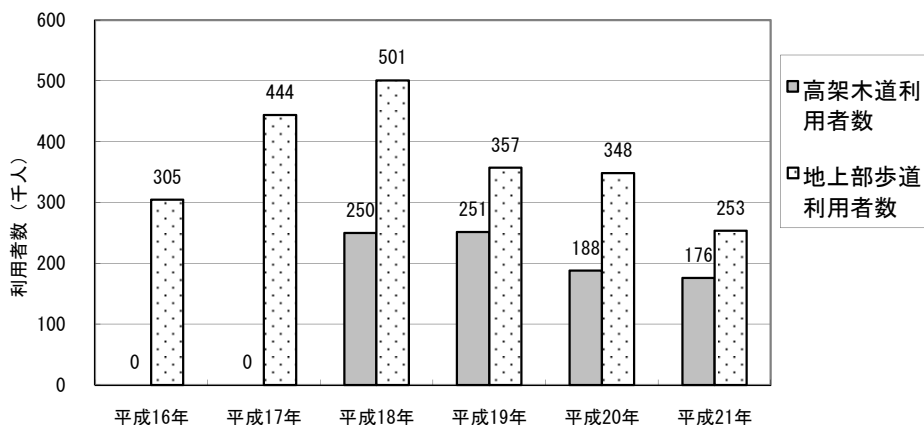
3万人利用なら、400円

経費は最も安いパターン②で、想定利用者数はパターン⑤～⑥の間で3万人程度と考えると、1人当たりの手数料は400円となる。

4万人の利用者を想定すれば300円、6万人の利用者を想定すれば200円となる。

#### 【4. 高架木道の利用者の想定】

過去6年間の知床五湖高架木道および地上歩道に設置されたカウンター計測に基づく利用者数は、下記グラフのとおりである。



##### ○高架木道延長の効果について

高架木道が最終展望台まで完成した本年（H22年）の高架木道の利用者数は7月までの集計（速報値）で115,893人（H21年比147.4%）、同じく地上歩道利用者は62,922人（H21年比62.3%）と、高架木道の利用者数は増加傾向で、実数では初めて地上歩道利用者を上回りつつある。またH22/6/22～7/6の11日間に行った簡易調査では、大型バス178台の平均値29.34人/台の利用者のうち、10.9人は高架木道のみの利用であった。このデータでは、団体ツアー利用者の約40%は既に高架木道のみの利用にシフトしている。ヒグマ遭遇の危険が無い安定的な利用ができ、連山・海・湖畔の眺望が楽しめる高架木道のメリットについては一定の評価を得ていることが想像できる。

新制度に先行して完成した高架木道は、知床五湖に新たな魅力を加え、利用調整地区制度を利用しない可能性の高い多くの利用者を受け入れて、全体の満足度を高めることに貢献しつつあると言える。

##### ○今後の施設整備（予定）

- ・展望台3か所および待避所4か所に解説版を設置（H23春供用開始）
- ・五湖FH整備と同時に高架木道への動線もわかりやすく整備。
- ・H24の外溝工事でも駐車場からの動線整備を継続して行う見込み。